

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500760		
法人名	有限会社 錦秋会		
事業所名	グループホーム木かげ (こもれびユニット)		
所在地	千葉市緑区土気町1500-1		
自己評価作成日	平成22年2月26日	評価結果市町村受理日	平成23年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成23年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さんの意思(想い)を大切にしています。
ご家族さんから信用・信頼して頂けるよう小まめに連絡をしています。
季節感を味わえるようなイベントの企画(初詣・ひな祭り・納涼祭・クリスマス・餅つき・花見など)入居者さんに毎日笑って生活して頂けるよにスタッフ全員で目標をきめました。
「一日一笑」

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR土気駅から徒歩10分程にあるホームは、庭を中心に2ユニット配置され、採光が良い。管理者と主任の下、全職員が同じ方向に向かって、質の高いケアを目指そうとしている。介護度の高い入居者もいるが、笑顔になれる毎日を過ごしてもらおうという思いで日々ケアを行っている。ホーム設立6年目になりある程度の体制は整いつつあるが、入居者、家族の思いをさらに汲み取り改善していこうという姿勢が感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆の目に入る所に理念を貼り出し確認している。会議で目標を再度決め、理念と同様職員に周知している。	「笑う門には福来たる」というわかりやすくないみやすい理念を掲げ、入居者も家族も職員も笑顔でいられるケアを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回したりしている。近隣住人との交流はある。ボランティアに来てもらっている。近所の農協に木かけ新聞を張り出して買い物に行っている。	年間行事のバーベキュー大会、クリスマス会には近隣の人に参加を呼びかけている。地域の避難訓練にも参加し地域の一員としての活動をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	元民生委員の方にボランティアで来ていただいているが、近隣住民の方との交流を益々深めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行い話し合っている。	2ヶ月に1度定期的開催されている。ホームの現状報告、参加者からの運営への質問など意見の交換が行われている。	運営推進会議には家族、ボランティアで関わった人、元民生委員等の出席があるが、市町村からの参加がない。今後は、行政の担当者、地域包括支援センターの職員などへの参加働きかけを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	色々と相談し助言を頂いている。	市役所の担当部門から必要な情報をもらったり、相談をしたり連携を取っている。ホーム新聞を市役所に置かせてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設外での研修へ参加している。新しく入社したスタッフへは初めに認知症や身体拘束について説明をしている。勉強会や日常の中で伝えていたり、スタッフ間でも気をつけている。	玄関の施錠はしていない。身体拘束の勉強会も行われ、身体拘束をしないことの大切さを職員間で共有できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起こらない様、スタッフ間でお互いの行動や言葉使いなど注意を払い気をつけている。小まめにスタッフに声を掛けている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について理解しているスタッフと、そうでないスタッフがいる為、勉強会で取り上げていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者の対応で納得のいくまで話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議に家族様の参加をお願いしている。その際に意見や要望を伺っている。参加できない家族様にも個々に電話や面会時などに伺っている。 意見箱を設置している。話し易い関係・空気作りを努めている	ケース会議にはできるだけ家族の参加を求めている。ホーム新聞にも「ご意見、ご要望お寄せください」の一文が入り、要望を言ってもらうことを望んでいるという姿勢を家族に示している。意見箱も設置し、より意見や要望を伝えさせている	意見箱の利用もあり、家族の意見を運営に生かした事例がある。しかしその経緯が公表されていない。公表することで、要望が運営に反映していることが明確になり、さらに家族の意見を引き出せる可能性があると思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	もっと、意見などをできる関係作りが必要。	自由帳や申し送りノートなどを使い、自由に意見を伝えることができる。職員は代表者や管理者、主任に直接メールでのやり取りをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できていない。管理者が行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会の実施、施設外研修のお知らせは貼り出し、個々参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外での研修や他施設の見学を出来る様に管理者が連絡を取ってくれている。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを多く取り話しやすい関係を築ける様に努めている。入居前には、ご本人に見学・面談に来ていただいている。 その都度の状態や過ごし方で察していけるように、一人一人の事を把握できるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者さんに対し、担当スタッフが小まめに連絡をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時に困っている事や、今出来る事・生活習慣など情報収集して支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の出来る事をして頂き、スタッフと共に皆で助け合い、掃除など家事仕事をして過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小まめに連絡相談をし、家族さんの負担など考えながら散髪や外出など、入居者さんの意思を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状やお手紙の交換、友人が面会にきてくれたりしている。 以前は自宅訪問などしてたが最近出来ない為検討していきたい。	家族には毎月様子を知らせており、受診結果の報告や外出の連絡など、まめに連絡を取り、関係継続に努めている。友人等のホーム訪問も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係がうまくいこう気をつけている。 仲の良い人同士はよいが、なかなか輪に入れなく孤立してしまう方もいる為、スタッフ間に入り、輪に入れる様に気をつけています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	あまり出来ていないが、入院の為での退所した方は、定期的にお見舞いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話しやすい関係作りに気をつけて、本人の思いや希望を伺っている。 本人や家族から情報収集をし本人の気持ちになり考えられるように心掛けている。 スタッフ間で話しあったりして検討している。	職員は介護をする中で、入居者と接する時間を上手に作っている。その時間から細かい変化を見つけたり、入居者の思いを汲み取ったりしている。情報は、自由帳に職員全員で記入し、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴・情報収集をして、本人の趣味や得意な事をして頂けたらと努めているが、強化していきたい。 家族様から入居時に詳しい生活歴など記入してもらい、更に日常の中で本人より聞いてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートを作成し、その都度状態の変化に伴い修正しスタッフ間で共有できるように努めている。 状態の把握に努め、一日をより楽しめる様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なケース会議を実施し、家族さんへ参加をお願いし話し、全員で話し合っている。	職員1人が2名の入居者を担当している。その担当者や家族も参加するケース会議を月1回4~5人分を行っている。また独自のアセスメントシートは、色を変えて追記しており、それをもとに現状に沿った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日誌や申し送り・ユニット別のノートを使いアイデアや意見交換しスタッフ間で情報の共有し見直しているが、共有に関しては強化が必要。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常での変化を見逃さないように気をつけ、家族さんへ相談し、スタッフ間で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緑区の防災訓練・お祭りなどに参加し、グループホーム木かけを知って頂く様になっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医で良いのか入居時に確認している。家族さん希望で、他の医療機関に行く際は家族さんに協力していただいている。	ホームの決まりではないが、現在入居者の希望で全員がホームの協力医をかかりつけ医としている。協力医はホームの思いを理解してくれており、ターミナルケアにおいても往診をしてくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医に相談している。必要に応じて訪問看護の利用相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはアセスメントシートを渡し、さらに気をつけることなど詳細を説明している。マメに面会に行き様子を伺っており、退院時にはご家族さん・病院と連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と主治医・ホームで小まめに受診や往診・連絡をとり話し合っている。	昨年初めての看取りを行った。本人や家族、医師とともに話し合いながら進めることができた。運営推進会議の議題にもあげた。今後、具体的なホームの指針を作成し、全家族、入居待機家族にも伝えていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の救急講習に参加やホーム内での勉強会で定期的に取り上げている。資料を全職員に配布している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間・日中想定での避難訓練の実施をしている。	年2回避難訓練を実施した。昨年外部評価で指摘があった夜間想定での避難訓練も行き、問題点を把握できた。平屋造りで避難口は多いが、避難経路を図にして壁に貼り、職員と入居者が一緒になって日々確認しあっている。また、今年度の大地震を経験し備蓄品を増やした。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けには、気を付けスタッフ間でもお互いに気を付けている。常日頃から、感謝・労いの気持ちを忘れない様に心がけ声掛けをしている。	入居者への言葉かけ、接し方は職員全員で気を付けている。また、本人の希望や家族との相談の上、あだ名や方言を使った話しかけで、入居者と接する場合もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	落ち着いた空間をつくり、思い思いの事が出来るように心がけている。 希望や思いを伝え易くなる様に、各担当者を決め信頼関係を築けるようコミュニケーションをとっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務でバタバタしてしまう事もあるが、どんなことがしたいのか聞き、その人その人の過ごし方を大切に思っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に洋服を選んで頂いたり、起床時の整容に気を付けているが、時々乱れている時もあるため、再度徹底していく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは皆で協力している。調理師の手伝いで野菜などの下準備も出来る方にはして頂いている。	食材仕入れ、調理を外部に委託しているが、調理師に協力してもらい調理への参加、配膳等を行っている。イベント時には食材を止めて、入居者希望の献立にしたり、外食に出たりしている。お盆や正月は数日間、入居者と職員で献立を考え、好評であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立の物を提供し、水分は本人の好みなど配慮し工夫し、チェック表を記入して勤務者同士で共有し気を付けている。 本人の状態に応じて、トロミや刻み食で提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた声掛けに気を付けているが毎食後、必ずしも徹底出来ていない為、更なる徹底が必要。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合った、声掛けや誘導・排泄チェック表を用いて排泄パターンを考え、工夫している。	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導している。また、残存能力の維持のためのリハビリパンツ使用、精神的な不安を軽減するためのパットの使用等、入居者の思いを大切に支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホットタオルでのマッサージや、乳酸菌飲料・朝一番に水や牛乳を摂っていただいたり、バナナやオリゴ糖を使用し便通を促している。 運動を強化し、気を付けていきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に三回を目安に、個々の希望に合った声掛けや時間の調整をし、朝から夜までいつでも入れる環境である。 入浴剤の使用や足浴・清拭をしている。	入浴の曜日は決めていない。入浴チェックリストで一人ひとり確認しながら、最低でも週に3回入ってもらうようにしている。入浴を拒む入居者には、「ホーム家族の一員」である職員の子供が一役買い、入浴するという工夫もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	パジャマに着替えて頂き、生活での習慣やメリハリを心掛けている。 湯たんぽ・加湿器の使用や、エアコンで室温を調節し、安眠をして頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬はスタッフ管理し、決められた時間に内服している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な事や好きな事を出来るだけして頂き、自信やハリある生活を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	イベントでの外出をしているが、もっと個々の希望など聞いていきたい。 車酔いのある方などはあまり遠出は出来ない為、近場や徒歩での散歩を増やしていきたい。	富士山が見たいという入居者の希望をかなえたり、家族が参加するイベント作りや地域行事への参加など、戸外に出かけられる機会を日々考え実行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームでの管理をしているが、希望で持って頂くことも可能。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、ご家族さん了承を得て電話を掛けさせてもらっている。 手紙の書ける方にはホームからの手紙と一緒に書いてもらったりしていきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りが出来るように心掛けている。 居室に表札や浴室やトイレには分かりやすい様に看板を付けたり、使用中の札を付けている。 気温や湿度はエアコンや加湿器を使い調節している	ボランティアの協力による切り絵や、イベント時の入居者の写真等が壁に貼ってある。食卓とは別に、テレビを囲む形でソファが配置されており、入居者は自由に思い思いの場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は個々の性格など配慮し決めさせてもらっている。 入居者さんが好きな場所で過ごせるようになっている。腰掛られる場所を多く用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具などを持って来てもらっている。 タンス内が分かり易いように、シールを張ったり、入居者さん・ご家族さん・スタッフで整理、整頓をしている。	入居契約の時に、使い慣れた物を持って来てもらえるよう説明をしている。思い出の品が居室に飾られ、入居者の人生が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	刃物や洗剤など危険な物は鍵を掛け注意をしている。扱える方には調理で包丁を使ってもらっている。 出来る・出来ないを把握し、入居者さん一人ひとりに合った支援をしています。		